

日刊 動労千葉

82, 10, 20
No. 1174

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五〇六・(公衆電話)22七二〇七

感想文特集

10.11 三里塚闘争に参加して

その1

十・一一、三里塚現地集会は、全国から一万三千五百名が結集し、成田用水絶対反対、革マルの謀略デマ弾効をかちとり、画期的成功をおさめた。とりわけ国鉄労働運動解体攻撃に反撃する突破口として、全力で取り組み、四五〇名の大決起を実現した動労千葉を先頭に、国労一五〇名をはじめ、労組連三千五百名の大決起をかちとった。この力をもって、五七・一一合理化粉碎、仲裁々定完全実施要求、秋季反戦闘争の大高揚にむけ闘おうではないか。『日刊動労千葉』は、十・一一、三里塚に参加した組合員の感想文を寄せてもらったので、順次掲載します。



決起した450名の動労千葉、南川委員長が決意表明。(10.11三里塚カー公園)

老いも若きも……闘志がわく

千葉転支部(五七才)

三里塚動員指令の名前がはり出された。全力動員だ。老いも若きもという表現があてはまる。いつものことながら、天気が心配だ。今までもたびたび天気には苦勞させられた。

当日、やはり雨だった。長靴に雨合羽で成田運転区に到着。なつかしい顔、顔。バスにて三里塚にむかう。現地近くにつれて、ものものしい機動隊の姿に闘志がわいてくる。

動労千葉の入場、この入場が一番緊張し、一番闘志がわいてくるのだ。泥んこも何のその、四五〇名の堂々たる入場だ。これからも三里塚農民と一体となって、軍国化に向いつつある現在、農民とともに空港反対・軍国化反対に進んでいこうではないか。

目の輝きがちがう

佐倉支部(十九才)

十月十一日の三里塚決戦に行つて、今思うことといつたらまず、三里塚決戦のため

二期は阻止できる

木更津支部(十九才)

雨の中の今回の三里塚に、あんなに多くの闘う仲間たちが集るのでから、三里塚二期工事は阻止できると思う。

国鉄労働運動の戦闘的再生だ

勝浦支部(二四才)

今秋から来春にかけての突破口として、一万三千五百名の大結集をかちとった、動労千葉の四五〇名と国労の仲間の一五〇名の決起は、国鉄労働運動の戦闘的再生の展望を切りひらいた。

三里塚闘争を基軸に巨大な労働運動の全国潮流をつくり上げ、臨調II行革、国鉄三五万人体制粉碎、「三里塚二期工事阻止」にむけて、「一人一人が活動家になるう」を合いことばに、動労千葉一丸となり総決起していかなければならない。共にガンバロー!

この団結と根性があれば

成田支部(三三才)

悪天候の中どれくらいの人数が参加してくるのか気がかりでありましたが、一万三千五百名の人が結集し、北原事務局長にかけられたデッチ上げデマについて

反対同盟は、革マル弾効声明を声高らかに発しました。

又、国鉄労働者六百名といういまだかつてない結集をみられた事は、農民の生命である「水」問題による同盟くずし策動や、もろもろの攻撃に対し、この団結と根性があれば必ずや粉碎できると確信しました。

あの雨の中(攻撃の嵐の中)での秋季年末闘争の突破口として、この上もない意義深い集会であったと思えました。

雨ってつきものなのかナ

蘇我支部(十八才)

自分にとって二度目の三里塚だった。一度目は雨だったので、二度目は晴れると思つたら、雨だった。三里塚に雨はつきものなのかなーと思つた。カップをきても、デモをやるとビショビショになつた。とても寒かった。デモを始める時間をもっと早くした方がよいと思う。

ふりしきる雨をついて、竟見軒昂とデモ行進。皆んぞブッぬれ。



全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!